



市障害者自立支援協議会地域ネットワーク部会

平成29年7月20日(木)

北九州市社会福祉協議会
権利擁護・市民後見センターらいと
南里 佳代子

**誰もが自分らしく生きられる
地域づくりのために**
～市・区・校(地)区社会福祉協議会の取組みと課題～



1

本日お話ししたいこと

- 1 社会福祉協議会の取組み
- 2 障害のある人と共に生きるために
 - ・課題となっていること
 - ・課題を解決するために広がっていること
 - ・さらなる「福祉でまちづくり」のために
必要と思うこと



2

北九州市の社会福祉協議会の取組み



北九州市の社会福祉協議会の強み その1

住民主体の地域組織、校(地)区社協が全市に存在

概ね小学校区を中心に、154の校(地)区社会福祉協議会が組織され、地域の実情に応じた小地域福祉活動を展開しています



北九州市の社会福祉協議会の強み その2

平成6年に導入したふれあいネットワーク活動を校(地)区社協の基本活動として、住民主体の福祉のまちづくりを推進しています

見守りのしくみ

福祉協力員(概ね50～100世帯に1人)が民生委員・児童委員等と連携し、支援が必要と思われる世帯を見守る活動

助け合いのしくみ

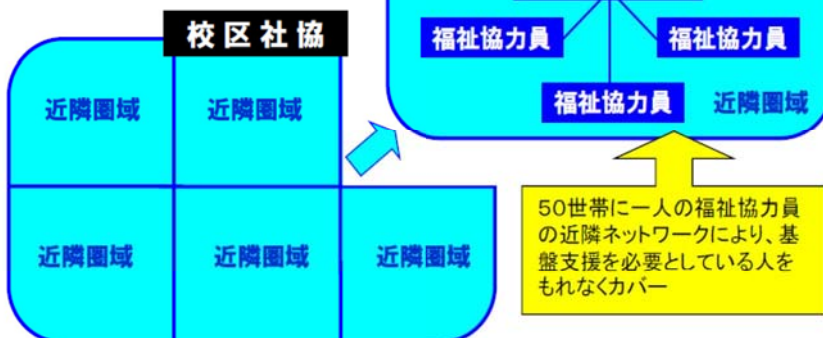
見守りで発見した日常生活上の問題のうち、ニーズ対応員(チーム)で、地域住民でできる範囲のものを手助けする活動

話し合いのしくみ

見守り・助け合いを進める中で出てきた問題点などについて、関係機関や団体と一緒に話し合いを行ない、解決の方法や役割分担を検討する

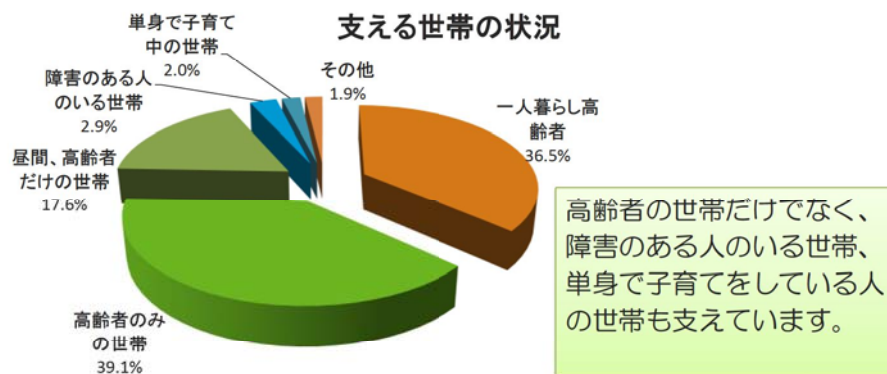
支援の必要な人に対する漏れのない、きめ細かい見守り体制

校区を300～600世帯に細分化＝近隣圏域の設定
各近隣圏域にリーダー1人と50世帯に1人程度福祉協力員の配置



ふれあいネットワーク活動の平成28年度推進状況

小学校区を基本単位に市内全域154校(地)区社協で福祉協力員6,941人が120,149世帯を支えています



高齢者のサロン活動

1 つながいづくり

みんなが気軽に集える身近な場所で顔の見えるご近所さんを増やしましょう。

2 心と体の健康維持

月1回以上の定期的な開催で、健康づくりや自分の居場所・生きがいを見つけられれば、心身にハリのある生きいきとした暮らしを送れます。

3 ニーズ発見、情報共有の場

参加する人はもちろん、来てない人のニーズの把握や、生活に役立つ情報を知ることができます。



ウェルクラブ活動

1 笑顔の広がるまちづくり

子どもたちの笑顔が、みんなを幸せにします。

2 次世代活動者の育成

地域の宝である子どもたちに福祉のところが育まれ、保護者世代に社協活動を知ってもらうことができます。

3 幅広い人たちの参加が

保護者、PTAや学校など地域全体に支え合いと協働の輪が広がります。



地域の福祉活動のマスタープラン！ 小地域福祉活動計画づくり

- 1 中長期的な目標を目指して、**段階的・継続的**に活動を展開していくことができる
- 2 活動の**優先順位**や**重点**がはっきりする
- 3 活動がうまく展開されてきたのか**ふりかえり**、次の課題を明らかにできる
- 4 地域の課題や目標を関係者で**共有**し、同じ方向を向いて**協働**することができる
- 5 計画づくりの過程で**人が育ち**、地域の関係者の**連帯**も強くなる
- 6 話し合いの過程や計画の公開により、広く地域住民の**理解と協力**が得られる



その他市域・区域での取り組み

- ・ボランティア・市民活動センター
- ・ボランティア大学校
- ・出前講演
- ・生活福祉資金貸付事業
- ・地域福祉権利擁護事業
- ・法人後見事業
- ・生活困窮者自立支援事業
- ・地域相談支援事業

契約締結者の内訳

H29.3.31現在

認知症高齢者	57.4%
知的障害者	23.2%
精神障害者	16.8%
その他	2.6%

受任対象者の内訳

H29.3.31現在

認知症高齢者	52.0%
知的障害者	26.0%
精神障害者	22.0%

11

その他市域・区域での取り組み

生活困窮者自立支援事業

平成28年度から各区に相談窓口を開設

- ① 生活困窮者の自立と尊厳の確保
- ② 生活困窮者支援を通じた地域づくり

早期把握や見守りのための地域でのネットワーク構築

地域のなかで働く場や参加する場を広げ役割や居場所を見つけられるよう

地域支援コーディネーター

平成27年度から各区に配置(13名)

- ① 地域資源の発掘・組織化
- ② 互助活動の支援

サロン活動など、住民主体の互助活動の立ち上げ・運営支援

ボランティアコーディネーターと連携した活動支援、ネットワークづくり

関係機関・団体との情報共有・提供による地域支援

北九州市における福祉概況と 地域における今後の課題



地域における支え合い機能の低下

就学・就職・転職などによる人の移動の増加

⇒ 地域への愛着や連帯感の低下

少子高齢化、核家族・単身世帯・未婚の若者の増加

⇒ 家族や近所による支え合いの弱まり

既存の制度だけでは十分に対応できない人

⇒ 制度の狭間にある人の増加

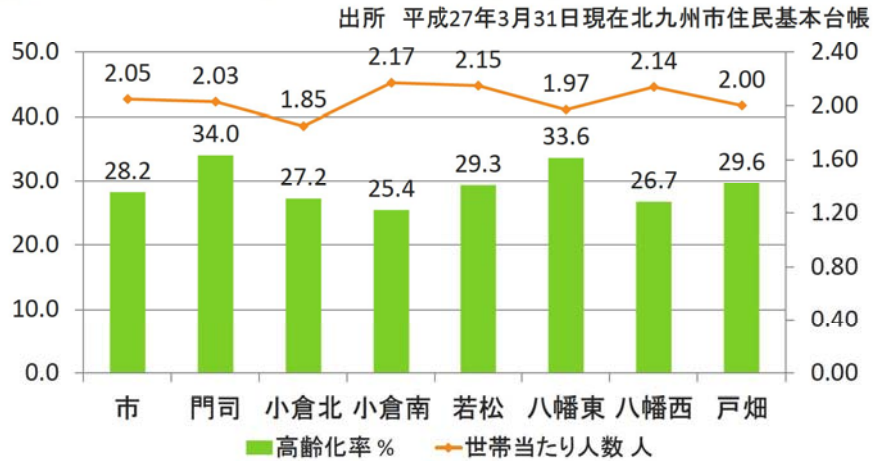
非正規雇用者(派遣・契約社員、パート・アルバイト等)の増加

⇒ 経済的に困窮する世帯の増加

課題を抱える世帯の把握や住民間の情報共有も乏しく

⇒ 課題を抱えたまま地域で孤立した生活を
送らざるを得ない世帯が増加

北九州市の高齢化率と世帯当たり人数



門司区や八幡東区で高齢化率が高く、小倉北区では世帯当たり人数が少なくなっています。

地域福祉に関する市民意識調査から

「地域の支え合いは大切なことだ」
との回答は全体の何%？

地域の支え合いに頼らず
に公的な福祉サービスで
対応すべきだと思う
8.3%

その他
0.9%

無回答
3.9%

83.9%

行政が対応できない課題は
ボランティアやNPOに任
せたほうがよいと思う
2.9%

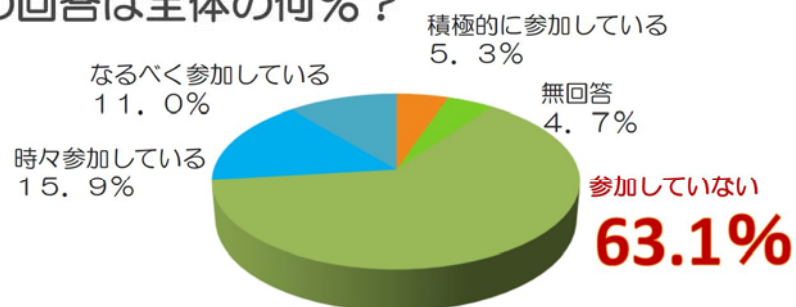
現在の自分には必要ないが、
大切なことだと思う
34.8%

地域における支え
合いは必要であ
り、今後も充実さ
せるべきだと思う
49.1%

地域の支え合いや助け合いは日頃の
ちょっとした付き合いの積み重ね…
必要になったからといって短期間で培われ
るものではありません

地域福祉に関する市民意識調査から

「地域活動への参加の有無」で
「参加していない」
の回答は全体の何%？



実際に、何らかの地域活動に参加している人は、
32.2% (約3人に1人)

課題とこれから取り組んでいきたいこと...

障害のある人と
共に生きる地域づくりのために

課題となっていること

- 校(地)区社協
 - 活動の対象が高齢者中心になっている
 - 障害のある人の生活・福祉課題に気づけていない
 - 個別の生活・福祉課題を地域で解決していくことについて・・・
 - 「障害」や「障害者」ということ自体の理解が低くお互いを知る機会が少ない
- 区社協
 - 障害のある人やその家族等からの相談自体が少ない
 - 地域支援に注力してきたため個別支援のノウハウの蓄積がない
- 市社協
 - 個別支援の相談支援員等から、「一緒にこの人の支援を」と
 - 地域にはたらきかけたりつないだりすることができていない

19

課題を解決するために広がっていること

- 「話し合いのしくみ」連絡調整会議の定期化・活性化
- 障害のある人を地域行事やサロンにお誘いする
- 障害のある人と取り組む災害時福祉救援体制づくり
- 生活困窮や権利擁護といった個別支援をテーマとした出前講演
- 校(地)区単位の小地域福祉活動計画づくり
- 地域の障害者福祉施設・団体との連携
- 高齢者問題に関わることで障害のある人の生活の気づきに...
- 障害のある当事者による出前講演活動等の福祉教育
- 個別支援のアセスメント項目に「地域とのつながり」を追加

20

権利擁護・市民後見 センターの事例から

<Aさん>

80代、女性、認知症

<Bさん>

50代、男性、知的障害

公営住宅にて二人暮らし

2人分の年金で生活

地域福祉権利擁護事業の
金銭管理・生活支援サービス
を利用

契約からこれまで

母親が金銭管理をしていたが、足が不自由になり外出が困難に。金や通帳の置き場所がわからなくなるなど物忘れも酷くなり、息子の言われるがままに金や通帳を渡してしまい、家賃や公共料金等を滞納、食の確保もできなくなり当センターにつながる。

関係者同席のもと事業内容を説明し、利用意向を確認、月1回ずつ、計月2回のサービスを利用中。

今後の課題

- ・ Bさんから頻繁に出金要請がある
- ・ 世帯単位の金銭管理ができていない
- ・ 福祉サービスの適切な利用
Aさんの介護サービス、Bさんの日中活動、
住まいのこと…
- ・ Aさん亡き後のBさんの生活

21

その他の支援困難事例等

- ・ 用途のよくわからない出金要請が頻繁
- ・ 携帯電話・スマホ、テレビショッピング等
- ・ 食事はお菓子かインスタント、掃除も入浴も拒否
- ・ 家電が壊れる
- ・ 「引っ越したい」
- ・ 障害のあるきょうだいがともに利用しているが…
- ・ 「配慮が足りない」と本人から、家族から…
- ・ 知人(特に異性)等からの侵害が疑われるも…

専門職のちからだけでは…
「変化」に気づき、見守り、理解し、応援する人の存在が

22

さらなる「福祉でまちづくり」のために

- 個別支援と地域支援との連携
 - 個別支援のための社会資源開発
 - 社会福祉法人の地域における公益的取組の推進
-
- ・できれば校(地)区レベルで
 - ・多様な主体が連携して
 - ・当事者性をもつ支援者と支援者性をもつ当事者との
出会い・気づきの場を、身近なところにつくっていく・・・

23

みんなが安心して暮らせる
支え合いのまちづくりを目指して...



24